

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	朝日の家	評価実施年月日	平成20年2月25日
評価実施構成員氏名	高山花江、浮中明美		
記録者氏名	高山花江	記録年月日	平成20年2月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	かきのみ 独自の4項目の理念を基本とし、定めている。理念に基づきサービスを実施している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営上の基本方針としており、日々確認し、指導しており全ての職員も言及意識し取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームが地域の信頼を得るためには、ホームの運営理念や役割について理解を得ることが大切と取り組まれます。そこで、町内会や職員の社会参加の機会、ボランティアの来訪の機会などを通し、積極的周知を図っている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域の幼稚園、保育所、小・中学生徒の訪問にて、踊りやゲームで楽しんだり、知人、友人が時々立ち寄りてくれている。また、天気の良き時は散歩に出掛け、近所の方々の交流も見られている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	職員が町内会班長を受けたり、町内の祭事へ参加し、楽しんでいる。また、川柳など趣味の会に参加されている方もおり、様々な事で交流支援行なっている。		
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域からの協力のお礼として、現在、年1度「質の高い文化の提供」という主旨で、ホーム主催の映画会を低料金で開催している。又、地域住民を対象にした「かきのみ祭り」も実施している。高齢者の暮らしに役立つ何らかの方法については、現在職員間で話し合いを進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎朝のミーティング及び定例の主任以上の会議や全員ミーティングにおいて、種々検討を行ない、評価を基にした改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を計画的に開催し、運営やサービス、取り組み状況を報告している。又、地域の声などを積極的に吸収し、反映の場になっている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ヘルパー講習、各種研修の案内あり、職員は積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、ホームとしても、町担当者に対して互理解し支援してもらえるような働きかけも随時行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ほぼ理解しており、必要な時には活用できる用意はある。また、各種研修会、講習会にも積極的に参加し、知識の吸収、制度を理解できるよう努めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	小青年は通達されており、日々の支援の中で十分注意されており、防止されている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に、利用者や御家族に文書と口頭で説明を行い、条約部理解をし、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、苦情については、意見表示できるよう、常に関く体制を取っており、迅速に改善するようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月の通信発行で、日々の様子などが知らせしている。また、個々人の変化や状況についてその都度報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時に、意見を求め、気軽に相談、表わせることできるよう、日常から、声掛けを多く取るようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員全体会議、管理者、主任会議に於て意見や提案を聞く機会を設けている。 安全衛生面、10-110-タオルへ変更、食事準備の効率化の反映。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日々の勤務人員は、勤務表に基づいているが、利用者や家族の状況の変化があれば状況に応じ職員の増員など柔軟な調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員は安心感を得られるよう対応しており、離職者の状況には、さりげなく対応し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各資格の取得、研修への参加などについては、積極的に支援し機会の確保を進めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	特養、老健、行政担当者など全体の交流会もあり、ケアサービス向上に向けての研修会等も実施されている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	*精神、肉体の疲労、ストレスを発散、または軽減するため仕事の内容や、対人関係に配慮している。		常に職員の健康、表情、行重かに気を配り、気軽に訴えられるよう声掛けを行っている。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	それぞれの職員が自分の個性を持って支援することができたり、楽しんで勤務できるよう、体制の工夫をし、向上を目指している。		苦手な事に対し、お互い助け合い指導を受け、上達している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	常に安心の出来る対応、話を傾聴することで、信頼関係持てるよう、心を開きしっかりと受け取らるよう努力をしています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	電話や面会時、いつでも御家族の意向、意見など聞くようにしており、受け止める努力もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回相談時には、内容の把握と御家族の意向を見極めることでサービスの利用対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	環境の変化に対し、雰囲気に徐々に馴染めることできるまでは、利用者の気持ちを大切にしながら見守る支援行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者、職員は、いつでも一緒に過ごしており、お互い尊重し合う事で家族のような関係を感じている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	電話報告や面会時には、日常の様子など話めことしている。職員は常に一緒に楽しんだり、悲しんだり、共に支えていく関係づくり行っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族と御本人の関係は、御本人の様子や気持ち代弁することで、御家族との関係良好に保てるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出の希望、面会など、送迎など行ない、知人、友人との交流には十分支援行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士、お互いが家族の様な関係になっており互いに心配したり、喜んだり、気を使う様子みられる。利用者の方々の個性や状態を把握し、関係づくり支援行なっている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	都合により退去した場合でも、面会、洗濯、電話のやりとり、手紙などを続けながら、良好な関係を継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も個々の思いを尊重することを基本としており意見にそった支援を行っている。日常1対1コミュニケーションにて意向の把握にも努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	それぞれの方の生活歴や生活環境を把握し、色々な思いを大切にしながら支援行なっている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの体調や感情、体かに合わせた日課と過ごし方を観察しながら1日の状況把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向、御家族の意向をふまに、スタッフと共に本人を混じり、より良い支援計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間ごとの見直し、また、変化時の見直し、適時のカンファレンス等行ない、計画作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録と情報を常に共有することで計画内容の実践の成果上げられるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホームの機能は利用者に対するケアの充足を第一義として考えている。が同時に出来る限り家族や地域へ開放し時々に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方々、子供達や学生、趣味のボランティア様々の方達の支援をもらい暮らしています。教育機関、カラオケサークルなど積極的に来所してくれている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じ、ケアマネジャーやサービス事業者への相談、話し合いは行っている。他施設へ移動の支援なども必要に応じ行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、具体的な協働の事例はないが、包括支援センターとは随時連携をとっているため、必要に応じ協働に向けた体制はできている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	体調管理常に連携を取り、受診支援行ない健康管理行なっている。尚、当ホームの嘱託看護師による日常的な健康管理も行っている。(週2日勤務)		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医とは良好な関係を築いており、相談し理解され安心して支援受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員と相談連携し、健康管理、支援行なっている。 (事業所として看護職員を確保している。)		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者、家族が安心できるような日々の面会様態の把握、早期退院できるように病院関係者への相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	体調観察と病院との連携を取りながら、御家族の意向を確認しながら、スタッフで取り組んでいる。また、「重度化した場合における対応に関する指針」も定めているので、これを基に全職員で取り組んでいる。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医とは連携を密にしており、医師の指導・助言をスタッフが共有することにより利用者のより良い生活の実現にチームとして取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>生活の場が変化することへの不安を解消するため、居宅の移転に際しては、家族や本人と話し合いや情報交換を密にし、住替えによるダメージやストレスを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人としての誇りや尊厳には、十分配慮しており、全職員にも徹底している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々人の状態に合わせ、自己決定を基本としているため、しっかりと話を聞き、解を得ることにしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の暮らしは、利用者を優先することは基本であり、利用者のペースに合わせて実施され、支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ハーマ、カット、毛染めなど、行きつけの店もそれぞれで、身だしなみには気を使っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の好みも、味もできるだけ個々に合うように、意向を聞いて合わせている。 おかず作りや片づけも一緒にこなしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日タバコを吸う方、時々映画を見る方、体調に合わせて制限のある方もいるが、できるだけ楽しめる支援を行なっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、前誘導を含めたトイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在は週に2回の入浴支援を行っているが、順番や時間希望に合わせて、ゆっくりと楽しめるよう支援している。	○	今後は、本人の希望に添った入浴支援を行なっていきたい。〈週3回入浴を設けたい〉
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者一人ひとりの睡眠のタイミングを把握し、眠れない利用者についてはその人本来のリズムを取り戻せるように生活のリズムづくりをアプローチしている。また、暖かい飲み物の提供や必要に応じて医師とも相談している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理の好きな方、片づけの好きな方、語りが好き、母欠が好きななどそれぞれの個性で共同で役割を分担、それにより利用者同士の交流が活発になり楽しみにもなっているようです。その中にてスムーズに行きえるよう支援行なっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭については利用者一人ひとりの力量に応じて支援している。買い物についても本人や家族と話し合いながら、できるだけ本人がお金を持ち支える機会を作るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節ごとの地域の行事への参加や暖かい日の外出など 本人の希望を尊重しながら積極的に戸外に出かけるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族の面会時、一緒に外出したり、希望を取り 外食に出掛けたり、ドライブなど機会を作り 支援している。	○	暖かい季節になったら、バス等利用し、近隣の 温泉に希望者全員行けるよう取組みたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	荷物が届いたり、本人希望される時は、すぐに 電話対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族、知人、友人の面会には気軽に過ごして いただくよう、希望の場所でゆっくりと過ごして いただいている。明るい雰囲気、お茶の用意。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束については、理解している。身体及び言葉、薬など 対象としており、職員も認識しており、身体拘束 しないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関への施錠は行なうことはない。 認識している。 居室の錠は利用者自身が掛けることはある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	日中の見守りと夜間の定時巡回、起床時の見守り及び 介助にて安全に配慮しながら支援を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	個々人の状況に合わせて危険物の保管除去を 行っている。ガラス製品、刃物、金針など。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防 ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	危険性のある利用者には、日々の連携の中で共有し、 注意を払うようにしている。スタッフも知識を学ぶため 学習会にも参加している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	講習会に出席したり、定期的に研修会を実施するなど 全職員が応急手当を行えるよう学習している。また、 職員が馬刺染の関係者をベースに、つねに変化や異常の 発見に努めている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている。	利用者の生活の安定が図られる事を第一に、災害時に備え 周辺地域や諸施設から力を得られるよう力加、 依頼は行っている。 (例、消防署、警察署、近隣公共施設、町内会) 近隣他施設など。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	入居時の説明と、入居後の体調の変化などにより 起こりうるリスクについても説明行ない、スタッフにも 対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の体調の観察を行ない、少しの異変にも早急に 対応できる体制を取っており、毎朝の申し送り時に 共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている。	介護に関わる全職員が薬の内容を承知しており 正しく服用できるよう支援している。又、毎朝のミーティング 時においても体調の変化を報告し共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘対策として薬を使用することもあるが、出来るだけ 食品、水分、運動にて改善出来るよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている。	自力が困難な利用者に対しては、一部介助にて支援 行ない、自立されている方は確認している。毎食後、 確実に実施。また入れ歯の手入れ管理も確実に 行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	個々人の摂取量、必要量、制限量をふまへ、毎回摂取 量の確認を行なっている。栄養バランスも考慮している。 飲水量も把握しており、必要量飲用できるよう支援 工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している(インフルエンザ、疥癬、 肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染予防研修などに参加し、知識を得、予防の対策 として、除菌対策(施設内の掃除)タオル共有中止、食品 の加熱、その他除菌対策取り予防に努めている。また、 インフルエンザ等の予防注射の実施。感染症マニュアルの 作成による共有も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日台所の除菌実施。清掃必ず行なっている。 食料は鮮度に気を配り、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を飾ったり、花壇を作ったり、気軽な雰囲気になっている。 裏には野菜畑もあり、のどかな風景にも見える。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花や食卓り物、写真等があり、のんびり過ごせる場所となっている。 いつでも、その時々に合わせて音楽が流れている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前、ベッド、ソファと、何か所もあり、色々な好きな場所で談笑されたりしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自身の使い慣れた家具の持ち込み、仏壇を入れる事で、安心されたりと、それぞれ思いで工夫されており、安心感のある居室となっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホール、居室。日中、夜間と常に確認、温度調整行なっている。居室の場所や利用者の意向に合わせている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	独歩、杖使用、歩行器、車イス使用の方々が利用しているが、可能な限り、自分で荷物ができるよう安全に配慮しながら、見守り支援行っている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人では面倒な事でも、さりげなく支援することで前向きに物事を行なう事で、活気のある日常送る事出来るよう支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に出て食事会や体操、日光浴を楽しむ、日々周囲の散歩を行ない、茶をながめたり、野菜の成長を楽しみにしている。		



V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>	利用者の方々の生活暦、環境、家族関係など考慮し個別に意志を尊重し対応している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>	お茶の時間や食事は共にゆっくりと食べ、時間の空いた時は、本の読み聞かせを行ったり、それぞれ好みの場所で談話をする姿がみられる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	起床の時間、就寝の時間、日中も個々人自由にされている。利用者同士の交流も自由にされており、一人一人のペースを大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	日々利用者の様子観察することで、少しの変化に気付くようにしている。さりげない声掛けや気持ちを察することで、不安無く安心して過ごされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	春は遠足、日々の外出、ドライブ、食事会、買い物などその都度希望を聞くことで実行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	毎日のバイタルチェック、様子観察行い、地元病院との連携しており、いつでも診察、治療可能対応されており不安なく対応できている。服薬管理しており、確実に内服支援行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	日々の利用者の状況や希望、訴えには適宜対応している。特に被害妄想、帰宅願望など強い訴えにもしっかりと傾聴することで安心されている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>	面会時や電話などで意見を聞いたり話を聞く機会を持っており、御家族も率直に意向を表わしてくれ良い関係保たれている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>友人、知人、を初め、こどもから老人間でさまざまの方が訪ねて来ている。定期的に園児や生徒、またカラオケサークル、茶道の方々が来られ楽しんでいる。</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>運営協議会の方々の協力を通して様々な分野の方々の協力をえています。夏祭りでは、地域住民ボランティアなど、300名を超える人々の参加あり増えている。 →「カサの外」主催の</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>「職員は、親切でいい、何時も笑顔で、明るく」をモットーに利用者に対応している。仕事内容、職員間の問題に対しては、随時改善できるように連絡報告を密にし穏やかな関係づくりをしている。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>日々の関わり尊厳のある対応に安心感と喜びを表わしていることが多い。細かな配慮、サービスに満足されていると思われる。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>利用者の方々の一人ひとりに合ったケアの取り組み行っており、家族にも意見を求めたり、報告連絡取り合い同意を得ており納得されていると思われる。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点  
等を自由記載) 様々な生活歴を持ち 高齢になってから、この地に住み、知らぬ者同士が、支え合って生活を共にされている。日々お互い心配したり、喜び合ったり、利用者同士のつながりを大切にサポート、また、一人ひとりも大切に支えていく、関係作りを大切に支援しています。